

Radio On The Street
西谷文和



発行責任者：西谷文和
連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33
TEL 06-6170-4757
メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送
しています。今後も年に4回程度発行します。

2025.5.30
第25号

●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索して
ください。YouTubeで聞けます。
チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせ
が来るので便利です。

4月5月、万博に行ってききました

ほぼ「子ども万博」

4月25日、1回目の万博取材。
西ゲートから入ったが、会場は
「ほぼ子ども」状態。遠足と修学
旅行の子どももたちがいなければ
「スカスカ万博」である。(写真1)
まず向かったのが「メタンガス
爆発トイレ」。このトイレのすぐ
そばにマンホールがあつて、ここ
が立ち入り禁止になっている。
(写真2) 4月6日、テストラン
の時に元消防士で共産党の守口市
議、寺本けんとうさんがここを計測。



手前：一般客 後方：遠足

参加者はほぼ遠足と修学旅行

爆発濃度を超えるメタンガスが計
測されたところ。マンホールの蓋
が外されて入れないようにしてい
るが、すぐそばを遠足の子どもた
ちが通り過ぎていく。

回転寿司に6時間待ち

さらに海側に進むと「くら寿
司」があつて長蛇の列。受付で尋
ねると、「食べられるのは午後4
時半頃」。えつ、今は午前10時45
分。ほぼ6時間待ち！

「くら寿司」の隣が団体休憩所
になっていて、午前11時に小学生



爆発濃度を超えるメタンガスが出たマンホール



消防車が通っていった

午前11時に弁当を食べる小学生と消防車

たちがお弁当を食べている。ここ
は小学生専用の休憩所で予約した
時間、ピンポイントでしか使えな
い。着いてすぐにお弁当を食べて
いる子どもたちの後ろを消防車が
2台通過していく(写真3)、何
か事故でもあつたのか？

看護師1人、ベッド3台

西ゲートの救護所へ。ここはな
ぜか撮影禁止。中に入り看護師さ
んに尋ねる。救護所は看護師1人
でベッドが3台。気分が悪くなつ
た人は「とりあえず寝てもらおう」。
医師がいなので治療はできない。
重症化したら医師が待つ3カ所の
診療所へ。そこでようやく治療を
受けるが、治らなければ救急車を
呼ぶ。かなりのタイムラグがある。

熱中症は集団で罹患する。果たしてこれで対処できるのかな？

流れない2億円トイレ

次に2億円のトイレ。下水の勾配が取れず、水圧が足りないので「流れないトイレ」として有名になっている。男性用はおしっこが漏れて色が変わっている(写真4)。

円形リングに上る。羽虫が蚊柱を作っている。ウォータールンドの後ろに「鉛筆のような」WTCビル。(写真5)夜はこのビルにプロジェクトクションマップを投影する。「鉛筆みたいな細いビル」に投影して見えるのか？1億3千万円もかけてする必要はあるのか？

カジノの工事は麻生セメント

実は円形リングの2階部分から



おしっこ漏れで汚れたまま
おしっこ漏れが目立つ2億円トイレ

工事中のカジノ現場が見える。望遠で撮影すると、なんと「麻生セメント」の文字(写真6)。あー、やっぱり。万博とカジノは利権で動いている。

工事費未払いで「万博倒産」?

ネパール館へ。外観の一部ができてはいるが、工事中断で開館のメドは立たず。工事費をネパールが払わないので、怒った建設会社が撤退した。(写真7)ネパールだけではない。突貫工事で間に合わせたパビリオン、建設会社に無理させて、急がせた結果、追加予算が必要になっているが、その分が未払いのところがある。下請け、孫請けを含め、工事費が入らなければ下手すれば倒産だ。万博終了後、おそらく訴訟が続出する。



遠くて見えないのでは？
「鉛筆のような」ビルに投影するというが…



工事現場に麻生セメントの文字 見せたくないはず

する一般客はほぼゼロ。万博は夜10時まで営業しているのだが、5月中旬時点で、入場者数は1日多くて10万人くらいだが、そのなかに関係者2万人



建設会社も匙を投げたネパール館

雨の中で座り込む中学生

5月9日の東口ゲート。午後2時半の時点で修学旅行生ばかり。小雨が降る中、疲れたのか地面に座り込む学生さんも。今から入場



午後3時の状況

5月9日東ゲートはガラガラ

責任者を逃すな!

このまま放置すれば10月の閉幕後。万博協会は解散し逃亡、吉村知事も政府も互いに責任をなすりつけながら、世論の風化を待つ。最後は税金で穴埋めすることになる。

路上のラジオでは「逃げ得」を許さず、誘致を決めた維新と政府の責任を追求していく予定。今後もしも愛聴をお願いします。

小出先生に聞く その19

イギリスは処分、日本は持て余す

なぜ日本は「資産」なの？

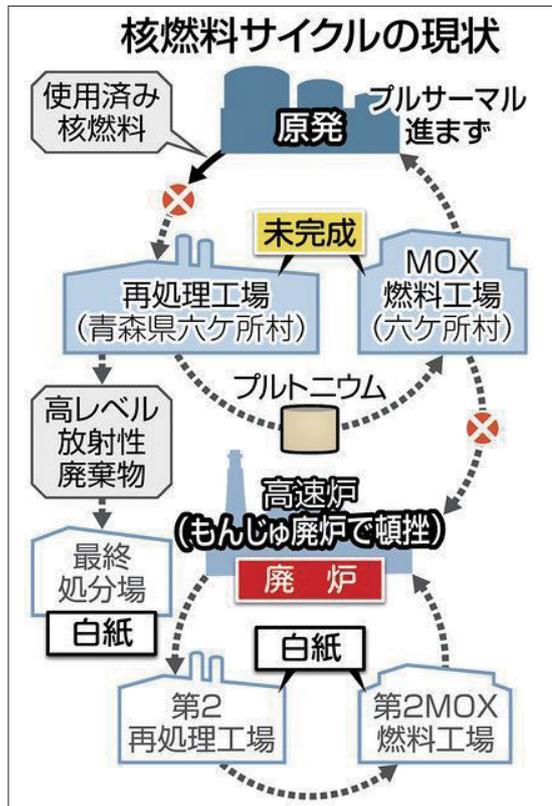
— 原発を動かせば超危険物質のプルトニウムが出てきます。先日イギリスは「核のゴミ」と規定して、地下処分を決めました。イギリスは約百トンのプルトニウムを持っていきます。これに加えて日本がイギリスに再処理を委託している分、22トンがあります。イギリスはゴミ、日本は資産。これはなぜですか？

小出 原子力は化石燃料がなくなった後の「未来のエネルギー」と宣伝されてきました。しかしウラ

ン埋蔵量は大変貧弱で、化石燃料と比べると数十分の一しかない。ではなぜ国は原子力が未来のエネルギー源だというのか？「ウランだけではなく、原発を動かしていれば長崎原爆の材料であるプルトニウムが出来るじゃないか。これを効率的に取り出して回転させれば、「未来のエネルギーになる」と説明しているのです。しかし「高速増殖炉」ができないと効率的に運用できません。

— 「もんじゅ」ですね？

小出 はい。1兆円以上かけて、小さな実験用の「もんじゅ」すら



動かせなかった。

— 事故を起こして。

小出 イギリスも高速増殖炉に夢を託したことがありましたが、核燃料サイクルができれば、プルトニウ

ムが「資産」になると言ってきたのですが、出来なくて撤退したのです。だから今や超危険な「毒物」です。「ゴミ」として処分するしかない。日本はイギリスとフランスに委託して、使用済み核燃料からプルトニウムを取り出してもらっていました。それがイギリスに22トン、フランスに14トン残っています。日本はそれを使うという「ポーズ」をとり続けているのです（苦笑）。なぜなら、そうしないと原子力が未来のエネルギー源だと言ってきたウソがばれてしまうからです。

処分費をイギリスに払う？

— 無理だとわかっているのに。

小出 イギリスは「日本の分はど

うする？ どうせお前たちには使えないだろうから、俺のところ

も馬鹿げているのが明々白々なのに、方針を変えられない愚かな国だと思えます。

— 原発だけではなく、東京オリピックも大阪万博も（笑）突き進んでいます。なぜ核燃料サイクルをやめないのか？と聞かれた石破首相は、「プルトニウムを持つのは、抑止力を持つことなので」と言いました。

小出 ずっと「原子力の平和利用」と宣伝されてきましたが、実は核と原発は同じものです。石破さんは軍事オタクでもあるので、核と原子力はセットだと理解しています。福島事故後も「原発を止めれば核を持てなくなる」が石破首相の主張でした。

原発＝核兵器を伝えていこう

— ある意味、正直な人ですね（笑）。

小出 正しく理解しています。正しくないのは「それなら原子力を動かすわけにはいかない」「核を止めよう」と言わないこと（苦笑）。核を持つこと自身が世界を危険にします。石破さんは根本的に考えを変えないと思います。— 原子力＝核兵器という事実を、ちゃんと伝えていかないとダメですね。今日はありがとうございました。

編集長より

手術後1ヶ月ほど車いすの生活を送り、その後両松葉杖、片松葉杖、そして今は普通の杖と回復しました。が、車いすから松葉杖になった日から突如、いつもの電車の乗り換えが間に合わず、置いて行かれるようになりまし。車いすは駅員が介助して下さるので乗り換えは必ず待っていてくれましたが、いざ松葉杖で自力で行くと、エレベーターはまずスーツケースを引いた旅行者などに先を越され、2便目で急いでも目の前で電車は発車してしまうといった具合です。

田舎の駅なので次まで20〜30分、寒いホームのベンチで待つのは辛いものです。高齢者や障害のある方は、いつもこんな思いをしているのかと少し感じました。そして駅で出発の旗を降る駅員がいまですが、車いす利用者以外の弱者に「想像力」が及んでいないことが残念でした。もちろん電車を遅らせるわけにはいけないのでしようが、どうにもならない不条理を感じたものです。

さて、この「想像力」は今の世に特に大切なキーワードであることとは確かです。まるでゲーム機の中のそれと同じ操作で、虫けらのように人を殺すドローン戦争、匿名で人を自殺にまで追い込むネットリンチ、身勝手な理由で繰り返される殺傷事件などを見聞きするにつけ、この荒んだ社会にはまったくな心の成長を失った人がどれだけ多いのかと考えてしまいます。デジタル演算で人の心や社会を読むことは不可能であり、人が人でありうるためのしなやかな感情こそが、人間社会が持ちこたえる力なのだと思うのです。行為の先を

想像する力、その先にはどんな時にも人の尊い心があるのだと意識していたい。社会のしくみは進化したが人間は退化した、とならぬように。

寒い冬の日、道端に落ちた小さな片方の手袋を見つけると、切なさ胸に押し寄せて、鼻の奥がつんとしてしまいます。心に思い浮かぶのは、紅く凍えた紅葉のようちっちゃな手。人工知能は、この感情は解さないとどうなるか「想像力」を働かせています。

(ディレクター・山本素)

4月に取材したレバノンとシリアの最新映像を約40分のDVDにまとめました。また今回の万博取材についても約25分のDVDに仕上げています
希望される方はメール：
nishinishi@r3.dion.ne.jp
までお申し込みください。

編集後記

大阪万博で許せないことの1つが「万博倒産」である。少なくないパビリオン建設工事で工事費の未払いが生じて、孫請け、ひ孫受け業者たちが途方に暮れている。私のところに相談に来る業者が「もう訴訟するしかない」とため息をつく。

なぜこんなことに？ 原因その1は資材と人件費の高騰。予定通りなら24年夏頃に完成させる工事が、入札の不調や夢洲という不便な場所のため、大幅に遅れて「開幕に間に合わない」事態になった。現地でドローンを飛ばして確認したが今年1月と3月の風景は全く別物であった。「よ一間に合わせたな」が実感。24時間体制で、労働者をこき使わないと無理な工事。莫大な追加工事費が発生した。これを各国の発注者か、元請けあるいは中間受けの企業が踏み倒そうとしているのだ。「いのち輝く」どころか「労働者のいのち奪う」万博だ。

原因その2は万博協会の無責任である。こうなることは分かりきっていた。だから協会が間に入って調整するべきだった。協会も維新も政府も「民間と民間のことなので」と知らぬ、存ぜぬを決め込んでいる。吉村知事は当初「3千万人は来る」「空飛ぶ車が上空をぐるぐると回っているだろう」とイキっていた。ウソつきの見栄のため、無謀な計画の無理強いのために、真面目に働いた人が傷ついている。こんな理不尽を許していいはずがない。今後のラジオでは、労働者の救済と責任者の追及を行う予定ですので、引き続きのご愛聴とご支援をよろしくお願いいたします。